



2017年6月13日

公益財団法人

船井情報科学振興財団御中

イエール大学 感染症疫学 博士課程 1年

塩田 佳代子

---

## 2016年度派遣奨学生 第二回 留学報告書

---

無事に Ph.D.コース一年目を終えることができましたので、2016年8月から2017年6月の間に達成できたことを簡潔に報告書にまとめたいと思います。

---

### PH.D.一年生の間に達成できたこと

---

#### 論文発表

- 筆頭著者の論文が1本アクセプト（現在 in press）
  - Kayoko Shioda, Leslie Barclay, Sylvia Becker-Dreps, Filemon Bucardo-Rivera, Philip Cooper, Daniel C. Payne, Jan Vinje, Benjamin A. Lopman: *Can Use of Viral Load Improve Norovirus Clinical Diagnosis and Disease Attribution?*. Open Forum Infectious Diseases (In press)
- 筆頭著者の論文を1本投稿
  - Synthetic control analysis を用いた肺炎球菌ワクチンの効果推定（査読中）
- 共著者の論文を2本発表
  - Anita Kambhampati, Kayoko Shioda, L. Hannah Gould, Donald Sharp, Laura G. Brown, Umesh D. Parashar, Aron J. Hall: *A State-by-State Assessment of Food Service Regulations for Prevention of Norovirus Outbreaks*. Journal of food protection 09/2016; 79(9):1527-1536., DOI:10.4315/0362-028X.JFP-16-088
  - Minesh P. Shah, Mary E. Wikswo, Leslie Barclay, Anita Kambhampati, Kayoko Shioda, Umesh D. Parashar, Jan Vinjé, Aron J. Hall: *Near Real-Time Surveillance of U.S. Norovirus Outbreaks by the Norovirus Sentinel Testing and Tracking Network — United States, August 2009–July 2015*. MMWR. Morbidity and mortality weekly report 02/2017; 66(7):185-189., DOI:10.15585/mmwr.mm6607a1

- 共著者の論文を 4 本投稿
  - ブラジルにおける肺炎球菌のワクチン摂取率とその効果の地域別関連性 (Revise 中)
  - Coronary artery bypass grafting 後の Dual Antiplatelet Therapy 使用について (Revise 中)
  - 名古屋における心臓外科の手術技法別アウトカムの評価 (査読中)
  - オレゴン州におけるノロウイルスのコホート研究の手法のまとめ (査読中)

### 学会や会議での発表

- 国際学会でポスター発表 3 本
  - 2016 年 10 月 IDWeek 2016 in New Orleans, LA
    - 男性間性交渉者の下痢症の疫学調査
    - 慢性疾患を持つ年配者のノロウイルス感染リスク
  - 2017 年 3 月 American College of Cardiology meeting 2015 in Washington DC
    - 成人 Fontan 患者のより正確な予後推定方法
- 2017 年 5 月 学科のシンポジウムにてポスター発表 2 本
  - ブラジルにおける肺炎球菌ワクチンの地域別効果推定
  - 中南米におけるロタウイルスワクチンの効果推定と感染症動態の変化
- 2016 年 10 月 6<sup>th</sup> International Calicivirus Conference in Savannah, GA に参加
- 2017 年 5 月 世界保健機関 (WHO) の肺炎球菌ワクチンに関する会議に参加
- 2017 年 5 月 11<sup>th</sup> African Rotavirus Symposium in Lilongwe, Malawi に参加
- その他、2017~2018 年開催の 2 つの国際学会にアブストラクト 4 本提出

### 研究費など

- 2017 年 3 月 Collaboration for Research Integrity and Transparency (CRIT) Small Award を受賞
- 2017 年 3 月 平成 28 年度補正 革新的ものづくり・商業・サービス開発支援補助金を受賞
- 2017 年 3 月 2017 Summer Institutes at the University of Washington の授業料免除と Travel Award を受賞 (2017 年 7 月開催予定)

### 研究プロジェクト

- 3 つのリサーチローテーション完了
  - 一学期 (Fall 2016) は Dr. Dan Weinberger と肺炎の疫学研究
  - 二学期 (Spring 2017) は Dr. Virginia Pitzer とロタウイルスの疫学研究
  - 夏学期はマラウイのブランタイア市 (Blantyre) にて Malawi-Liverpool Wellcome Trust Clinical Research Programme の Dr. Melita Gordon, Dr. Naor Bar-zeev, Dr. Marc Henrion と共同研究 (マラリア感染者におけるサルモネラに対する細胞性・液性免疫の変化について、小児下痢症の Case control study、肺炎球菌ワクチンの侵襲性肺炎球菌感染症に対する効果の評価)
- Yale 大学病院の心臓外科や循環器内科との共同研究
- 日本の心臓外科医との共同研究
- CDC との共同研究 (ノロウイルス、Acute flaccid myelitis など)

## 授業関係

- 全ての授業で Honor を取得（※Yale 大学大学院の成績は一般的な A、B、C、D ではなく Honor、High Pass、Pass、Fail という段階で評価される）
- TA になるための英語の試験（OPA2）に合格

## その他

- ベンチャー企業 Blue Industries のプロジェクトを顧問として手伝った
- CDC との Guest researcher の契約をもう一年延長した
- Yale 大学で 2 つのオーケストラに所属し、4 回の演奏会に参加することができた
- Yale 大学の日本人同士の交流の場を企画できた（Facebook グループの作成や忘年会、卒業生送別会の企画など）
- 北部の寒い冬を生きて乗り越えることができた
- ボストンの日本領事館で入籍致しました（論文など仕事関係は旧姓を使用します）

## 最後に

---

一年目は非常に充実していて、毎日とても楽しかったです。Ph.D.二年目も初心を忘れず気合を入れ直してより一層精進したいと思います。今後ともよろしく願いいたします。

塩田佳代子

Kayoko Shioda, DVM, MPH

[kayoko.shioda@yale.edu](mailto:kayoko.shioda@yale.edu)